



『足利氏宅跡・鏝阿寺』
鏝阿寺は、もとは足利氏の館（やかた）であり、現在でも、四方に門を設け、寺の境内の周りには土塁と堀がめぐっており、鎌倉時代前後の武士の館の面影が残されています。1196年（建久七年）足利義兼（戒名・鏝阿）が自宅である館に大日如来を奉納した持仏堂、堀内御堂を建立し、「鏝阿寺」となりました。

ばんなし



群馬県太田市世良田町の『世良田東照宮』

バスは長後から栃木県足利に向かって出発



足利学校の創建は奈良時代や平安時代と言われる諸説がありますが、室町時代の初期の創設（1439年）と言われています。関東官領の上杉憲実（のりぎね）が鎌倉田覚寺から僧侶、快元（かいげん）を招いて初代の校長として、学校の経営にあたらせ、その後学校は江戸時代から明治まで続き、明治5年に廃校になりましたが、地域の有志の保存活動により、教育の原点として今も生き続いています。

足利学校について

世良田東照宮について

徳川氏は、新田氏から分立したこの地を発祥地とする世良田氏の末裔を自称していたため、徳川氏ゆかりの地とされました。徳川家光が日光東照宮の造り替えを実施したときに、旧社殿を移築させたもので拝殿、唐門、本殿が国の重要文化財に指定されています。

